

# リメディアル教育の限界と使命感と志

## (公立大学の再履修クラスの実態からリメディアルを問う)

鷲北 貴史<sup>A</sup>

### 1. はじめに

報告者は2013年まで廃校となった全入私大の学習支援センター長だった。2008年度より本学会で、全入現場の葛藤とリメディアル教育実践の意義を問うてきた。当初は自分の発言に対して多大なるご批判をいただくことが多かったが、最近潮目が変わってきた気がする。この春には大学コンソーシアム京都に登壇させていただき、この十年間の大学現場での葛藤を吐いた。結果、多くの賛同をいただき、悩みの共有が参加者と共にできた。これはひとつには定員を充足しない大学数が増えつつあること、大学受験生の浪人生減少によるディバイドと偏差値50の下方化など、様々な理由が考えられる。一番の理由は低学力学生の存在とリメディアル教育の必要性が可視化されてきたことなのだろう。しかし、それは全入現場だけの問題なのだろうか？従来言われてきた、「選抜の機能している大学のリメディアル教育＝未履修科目の補習」という図式も訝しいものとなってきている。今回は選抜の機能している高倍率の公立大学での実践を報告し、「学力以外に起因する事例」を問うてみたい。

### 2. 公立大学のリメディアル教育とは・・・

高崎経済大学は中期日程でも選抜を行っている群馬県にある公立大学である。経済学部定員の60%は中期日程合格者である。入試倍率は名目(志願者÷定員)では17.8倍、実質(受験者÷合格者)でも4.2倍と高倍率である。偏差値は進研で65、河合塾で55と、そこそこのレベルは維持できている。

報告者は現在大学、高校など週に八か所の現場で講義をしているが、学生の基礎学力は間違いなく高いのだ。そんな大学でリメディアル教育は必要なのだろうか？実際に前期成績下位5%の学生を集めたクラスと、再履修クラスを担当しているが、学力以外の要因による成績不振というリアルが有るのだ。クラスに漂うよど

-----  
A: 高崎経済大学経済学部

んだ雰囲気は全入大学現場とも微妙に差異がある。おそらく中期日程合格者は、前期の第一志望校に落ちたことをひきづっている(旧帝大落ちが多い)からか？自分が受け持っている学生は大半がこのパターンである。課題をやらせるとやはり優秀なのだが、やらせるまでが大変であり、学校に来させることが大変なのだ。まさにremedyな現場なのだ。つまり、リメディアル教育のもう一つのファクター＝生活習慣の改善、学習モチベーションの構築などが課題であり、教務部職員とタッグを組んで取り組んでいるリアルを報告する。

### 3. 現場で何が起こったか？！

事例1：後期の下位5%クラスの開講初日、何人か遅刻欠席はいるだろうと想像しつつ教室に入ると、なんと教室に居たのは25人中5人(汗)これには、おぼかひとすじ28年の教歴を誇る私も、あまりにも衝撃で言葉を失ってしまった。茫然自失の私であったが気を取り直し「みんな、前の席に来よう！」声をかけ自己紹介を始める。お隣の上位クラスは全員揃っている。しかし、こちらの教室は誰も来る気配が無い……。「もしかしたら、変更前の教室にみんな居たりして。」と出席者のひとりが言い出した。実は、今年度も上位クラスとの学内交換留学を実施するために、早い段階で教室変更はお願いしてあった。しかし掲示は出ていたはずだ。まさか・・・と思いつつ変更前の教室に行ってみると、15名の学生が暗い教室の中でよどんだ空気をもたらしつつ無言で座っていた。これはまた衝撃的なシーンだった。自分のやってきた現場の中では、全入の下位の大学では誰も電気を点けようとせず、暗い教室で学生がよどんでいる風景はたまに目にしてきた。しかし高崎経大では7年間勤務して初の状況だったのだ。「君たちさあ、掲示板見なかった？」「は？？」そう、彼らには大学の掲示板を見るという習慣が無かった。キレル気持ちを抑えつつ、全員誘導して変更後の教室へと移動。初日は5名欠席。こ

うして後期日本語リテラシーⅡわっしー組は波乱の幕開けとなったのであった。(高崎経済大報告書より)

事例2:「もう大学辞めちゃおうかなあと思っているんですが」と、三年生がいきなり語り出した。後期の最終日 2/5 のことだ。前の週に行った試験も高得点だった。この日は一万字のレポートが提出課題だった。

「実は 6000 文字ちょいまで書けたのですが、完成しませんでした。なのでまた来年・・・というか、ゼミの 2 単位以外は何も取れなかったんで大学辞めちゃおうかなと思ってまして・・・」普段は寡黙な学生から衝撃的な発言。ここは自分の使命感が湧き上がった。自分のダメダメ学生時代の話をして説得をした。すかさず教務に成績評価期間の延長をお願いし、本人には「教務窓口へ提出すれば単位認定をするので、この 2 単位が取れたら中退しないでくれ」と約束をさせた。期日ギリギリにその学生は論文を完成させて提出をして単位認定ができた。(高崎経済大報告書より、一部改)

#### 4. とにかく授業に来させる仕組みを作ろう!

##### ①学内交換留学の実施

報告者の担当科目は経済学部一年次必修科目であり、複数の教員が同一時間に開講しているので、あえて隣の教室に上位クラスを配置してもらい、グループ学習では上位クラスに混ざって演習をやることで、モチベーションのアップを図る。逆効果か?と当初は心配したが「あいつら大したことないっすよー」「恥かかないように気合い入れてきました!」など、この作戦はうまく機能した。元々が能力によるものではなく、やる気に起因した連中だからという理由と、なぜか困ったちゃんクラスは全員男子なので、上位クラスは女子が多いというジェンダー的効果?なのだろうか。

##### ②教務部女子職員による電話攻撃

忙しい教務の方々には多大なるご迷惑をおかけしたが、二回連続欠席したら教務部の新人女子職員に電話がけをお願いし「来週は来てね」と学生に声をかけてもらった。これも男子クラスには効果があった。

##### ③面白いゲストを呼んで学校に来たいと思わせる

二年生の再履修クラスは、カリキュラムの自由度が高いので、プロのマジシャン、芝居小屋役者、破綻した山一証券に当時勤めていたアナリストなど、普段なかなか聴けないような話をゲストに語ってもらい、授業に来て良かったと学生に実感させることをした。



写真はマジシャンのカルロス西尾氏。彼が修業時代にホームレスだったことなど真剣に聴いていた。

##### ④校歌斉唱で愛校心を育む

これは、今年度から実施している。学生の前で同じ大学出身の先生と肩を組み応援歌を絶唱する実演をして、「君らもさ、卒業したら世代を超えて校歌を歌えるようになると、第二志望だろうがなんだろうが、学校に対する愛が芽生えてくるんだよー」最初や嫌がっていた学生も肩を組んで歌わせると大声を出すようになり、校歌斉唱は、授業中の発言態度が向上するなど、思わぬ効果が見て取れるようになった(写真)



#### 5. おわりに

以上自分の取組の一部を紹介させていただいた。大学現場でやることなのか?やる気が無い学生は放置で良いのではないのか?という意見もいただくのだが、やはり入学をさせた以上は、目の前の学生にとことん向き合うことが正義だろう。「教師の矜持」である。私の二単位で人生変わる場合もあるのだ。気をひきしめて I am a teacher を貫いていきたい。

#### 引用・参考文献

- 1)公立大学のリメディアルクラスを受け持った雑感 鷲北 高崎経済大研究奨励金成果報告書 2015p67
- 2)続・公立大学リメディアルクラスのエスノグラフィー 鷲北 高崎経済大学特別調査研究成果報告書 2016p75